

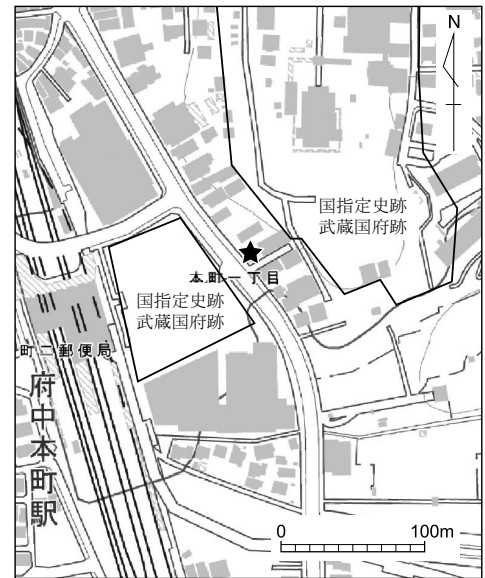
## 15. 1870.T 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡	
グリッド	M88-21次	
所在地	東京都府中市本町1-15-7	
現地調査期間	令和2年11月25日～令和2年11月26日	
面積	16.0㎡	遺物出土量 なし
検出遺構	土坑1基(M88-SK179)・ピット1基〔古代〕	
調査担当者	野田憲一郎	
調査従事者	伊藤和人・伊藤朱・磯部ゆい((合)Talo)	

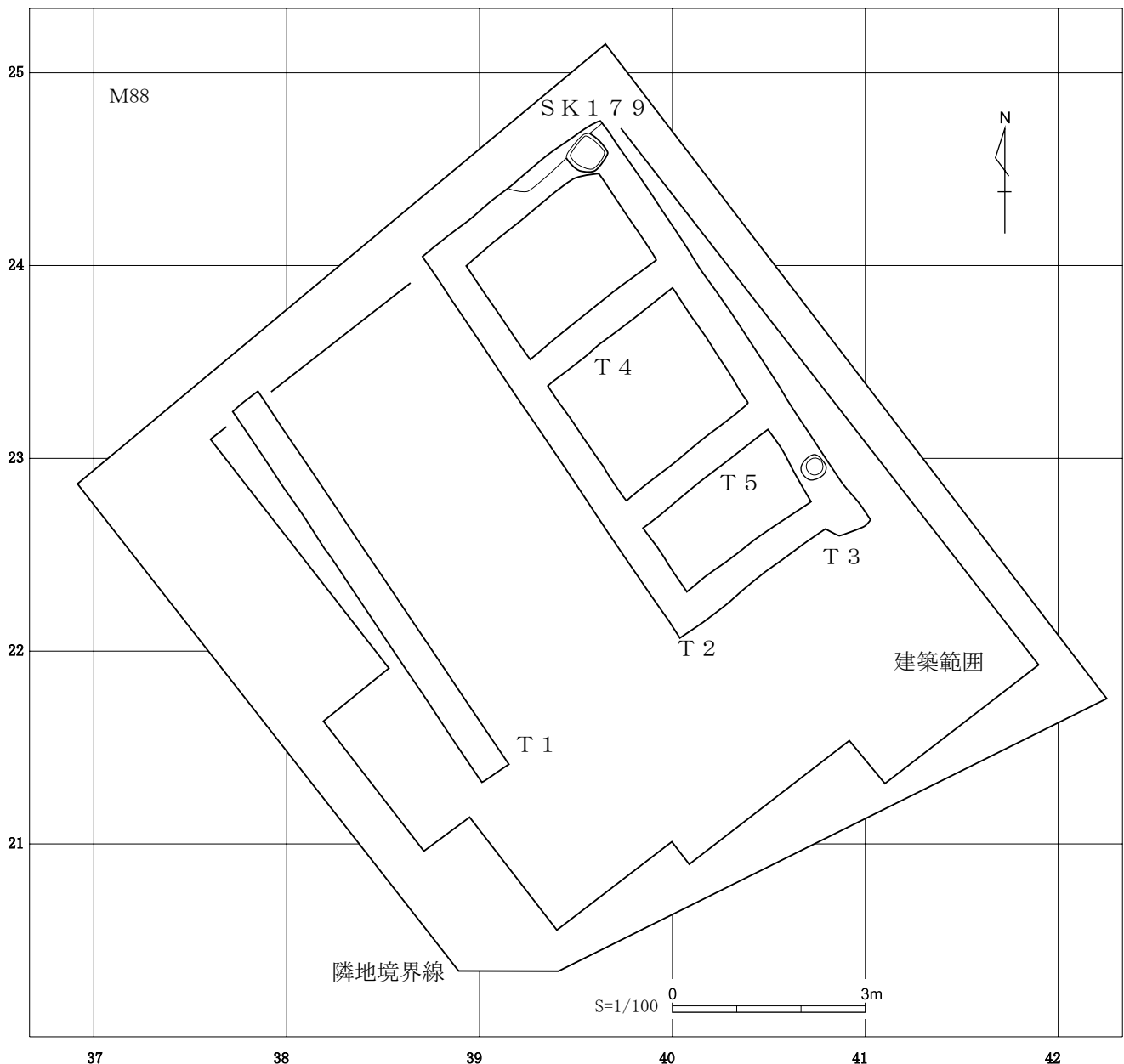
## 1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡に所在し、府中街道を挟んで西には国史跡武蔵国府跡(国司館地地区)が隣接し、北東には同じく国史跡武蔵国府跡(国衙地区)がある。

調査区周辺は、西から続く立川段丘の南端にあたる府中崖線が大きく湾曲し、舌状に張り出した台地上とそこから



第1870.T-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1870.T-2図 調査範囲図(1/100)

沖積低地に向かう府中崖線上に跨って立地している。

## 2 遺構と遺物

土坑 1 基とピット 1 基を検出した。

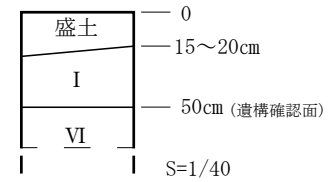
**M 88 - S K 179** 古代の土坑である。北側は攪乱されている。平面形は方形で、断面形は逆台形状を呈する。覆土の観察から、古代の土坑と考えられる。

**ピット** 古代のピットである。平面形は円形を呈する。底面は平坦で、ほぼ直角に立ち上がる。覆土は 3 層に細分され、最下層はしまりが強い。他にピットは検出されず、建物を構成する遺構ではない。

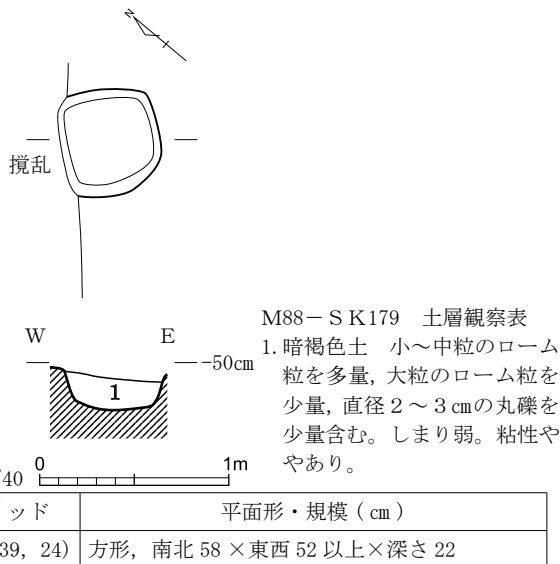
## 3 まとめ

本件は、集合住宅建設に先立ち、確認調査を実施したものである。建築範囲に南北方向に調査区を設定し、遺構の有無を確認したところ、東側で遺構を 2 基確認した。これらの遺構の性格を確認するため部分的に掘り下げたところ、覆土の状況から古代の遺構であると判断された。

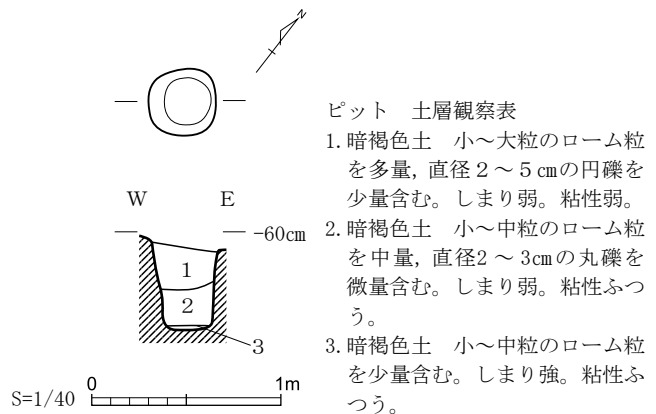
また、うち 1 基はピットであったが、このピットが建物を構成する柱穴である可能性もあったため、さらに東西方向にトレンチを入れ、遺構の広がりを確認した。しかし、これ以外に遺構は確認できず、それぞれ単体の遺構であることが判明したため、本調査の必要はないと判断した。



第 1870.T-3 図 土層模式図



第 1870.T-4 図 S K 179 平面・断面図



第 1870.T-5 図 ピット平面・断面図



第 1870.T-6 図  
T 3 全景 (南)



第 1870.T-7 図 SK 179 半掘状況 (東)



第 1870.T-8 図 SK 179 完掘状況 (北東)



第 1870.T-9 図 T 2 全景 (北)



第 1870.T-10 図 T 1 全景 (北)



第 1870.T-11 図 T 5 全景 (東)



第 1870.T-12 図 作業風景